

里沼の記憶

作詞：滝沢昌之

1. ^{おうら} 邑樂の大地めがけ ^お 降り立つ鳥は ^{はるか} 遠い空から ^{こもりぬ} 隠沼求め

^{たど} 辿り着いた ^{みずべ} 水辺は ^{守りの} 里沼 ^{つつじ} 躑躅の薫る日まで ^{しるあと} 城跡の風に舞う

朝陽に踊り出す木々の ^{はあと} 葉音は ^{こすえ} 静かな 梢にも 宿る愛の歌

溢れる涙も みな 光を浴びて 溶けていった 木漏れ日の ^{すみか} 住処へ

^{はなはす} 花蓮咲く 香りは 甘い記憶 いつか来た道 心通う街に 約束してくれる
2. いにしへの ^{さんもん} 山門に ^ま 夢跡纏い ^{うら} 未枯れゆく木立に ^{とき} 刻まれた時間

^{こさつ} 古刹の ^{あし} 葦の森は ^{祈りの} 里沼 ^{ちやがま} 茶釜に語り継がれ ^{かやぶき} 茅葺の寺 ^す 住まう

大河に照り映えて ^{まばゆ} 眩い ^{にしび} 西陽 いつしか ^{あかねぐも} 茜雲 ^{やまぎわ} 山際を染める

忘れた笑顔に そっと 許してくれる ^{りょうもう} 両毛へと ^{みち} 続く路歩けば

^{しだれざくら} 枝垂桜 仰いだ 遠い記憶 春を待ち侘ぶ ^{つかい} 番の鴨のように 優しく寄り添える
3. 松林が連なる 伝説の沼 遺跡眠る ^{たたら} 踏鞴の ^{さてつ} 砂鉄の丘に

水に映る 棧橋 実りの里沼 暮らしを ^{あす} 明日へ ^{つむ} 紡ぐ 金色の麦畑

^{ほの} 灰かに ^{かすみ} 霞立つ夜空の月と ^{けなげ} 健気に ^ふ 降り注ぐ星の ^{またた} 瞬きに

過ぎ行く過去も 今も ^ゆ 往く ^あ 当てのない 悲しみさえ 輝く朝を知る

赤城の尾根 見渡す 恋の記憶 命 ^あ 褪せても 信じあえた 岸辺 安らぎわかちあう